

技術士 2 次試験に合格して



隅江 純也

(すみえ じゅんや)

勤務先

北電総合設計株式会社

原子力部

〒060-0031 札幌市中央区北 1 条東 3 丁目 1 番地 1 北電興業ビル

TEL 011-222-4420 FAX 011-261-0026

E-mail j-sumie@hokuss.co.jp

■ 専門：建設部門(電力土木)

1. 自己紹介

私は、1979 年(昭和 54 年)に北海道北見市で生まれ、高校から現在まで札幌に住んでおります。大学では土木工学を学び、その後、道内の電力グループの建設コンサルタント会社に勤めました。入社後は水力発電計画等を担当し、現在は原子力発電所の再稼働に関わる設計業務に従事しています。

技術士という資格は、会社の先輩達が取得を目指していたことから、入社したての頃より建設コンサルタントに勤める上では必要な資格という認識を持っていました。

2. 技術士二次試験

(1) 筆記試験

一次試験は入社してすぐに勉強を開始し、入社 2 年目に合格しました。ただ、二次試験はかなりの業務経験を積まないと合格が難しい、という話を聞き、受験資格を取得してからなかなか勉強に着手できずにおりました。

そのような中、会社が技術士養成セミナーを開催してくれたことがきっかけで、平成 25 年に初受験しました。1 年目は準備不足で、紙面を満身に埋めることもできず不合格でした。2 回目の受験となった平成 26 年度は、択一問題が導入されて 2 年目の制度移行期間で、択一問題で不合格になっても筆記試験の採点が行われる年でした。この年の結果は、択一問題が 1 問だけ足りず不合格で、記述問題は A 評価でした。非常に悔しい思いをしましたが、記述が A 評価だったことに手ごたえを感じました。

しかし、その後は課題Ⅱか課題Ⅲのどちらかが B の不合格が続いてしまい、7 年間の長いトンネルに入ることになりました。

試験勉強は、毎年正月明けから徐々に準備を開始し、4 月の願書提出以降、本格的に論文作成や記述

訓練をするというサイクルでした。皆さん同じだと思いますが、仕事をしながらの勉強はとても大変で、勉強時間を確保するため、週末に小さな子供たちを遊びに連れて行くこともできません。平成 26 年の択一問題でギリギリまで悩んで正答から誤答に変えてしまった問題は今でも覚えています。

そして 8 回目の受験となった令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響で試験日が延期され、例年と違うスケジュールでした。受験者数も例年より少なかったようです。延期されてからもモチベーションを保って勉強できたことが功を奏したのか、ようやく筆記に合格することができました。

(2) 口頭試験

やっとなかなかチャンスを逃したくないと筆記試験の合格発表から口頭試験の間は、大学受験以来と思えるくらい必死に勉強しました。模擬面接は、社内の先輩技術士に 3 回、社外で 3 回受けました。

しかし、本番では想定外の質問が多く、満足いくような受け答えができなかった部分がありました。このため、合格発表まで不安な日々を過ごしましたが、結果は無事に合格することができました。

3. おわりに

受験勉強期間は非常に苦しいものでしたが、諦めずに続けたことで、技術士になることができました。努力を続けて本当に良かったと思っています。仕事においては、文書を作成する力が以前よりもついたことを実感でき、試験勉強を通じて技術力が向上したと思います。今後は資格を活かして仕事を行っていくとともに、別部門の取得を目指していく予定です。

最後に、受験にあたって多数の論文添削、模擬面接をして頂いた先輩技術士の方々、試験を応援してくれた家族には心から感謝を申し上げます。